

エジプト駐在武官

日誌(5)

オリンピック柔道ラシユワン選手

榊枝 宗男 陸自75

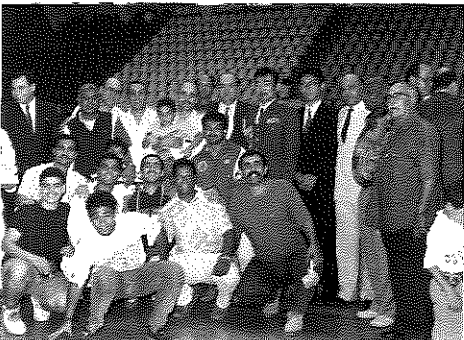
2020年夏の東京オリンピック開催に向けて誰しもが気持ちの高揚を感じている。ロンドン世界陸上競歩で、自衛隊体育学校のオリンピック選手候補者の荒井広宙3等陸尉が銀メダルを獲得した。他のわが国の選手と同様、活躍を期待したい。

さて、エジプトにおいてこれまで唯一のオリンピックメダリストは、1984年のロサンジェルズ大会柔道無差別級ラシユワン選手(体重120kg)だ。日本の山下泰裕選手と決勝戦で対戦した。準決勝で負傷した山下選手の右足を攻撃することなく正々堂々と戦い、結果として銀メダルを獲得した。これにより、当時の日本では武士道の精神の持ち主と報じられ、ご記憶の方も多いと思う。

げんことを慎むらしい。また、ラシユワン選手の銀メダル獲得は、国民的な評価を得ていないことも、不思議だった。中東では、相手が弱点を露呈した場合、徹底してその箇所を攻め立てるのが、砂漠の民の哲学らしい。しかし、彼はあえて山下選手の傷めている足を攻撃することなく、日本柔道の神髄「精力善用、自他共栄」の精神でもって、正攻法で戦った。

その後、彼はカイロから車で3時間の地中海に面したアレキサンドリア市内で、日本人の奥さんと一緒に小さな雑貨店を営んでいる。五輪大会のたびにいろいろな批判にさらされたという彼は、「武士道に反してまで金メダルは欲しくない」と言った。日本の武士道精神をエジプト人に学んだのである。

中東社会では、柔道をはじめとする武道は、軍や警察を除いて盛んではない。理由は試合開始と終了時に、相手に対して頭を下げ「礼」をすること、これがイスラム教の教えに反するとされる。イスラムでは唯一のアッラーの神にのみ礼拝し、現世の人間に頭を下



エジプト柔道協会の皆さんと
右から2人目奥がラシユワン選手